

引用文献

A. Hiruta, K. Ishii, K. Hoshino, N. Ota, M. Kitazono, Y. Yaguchi, S. Horiuchi. (2021). The meaningfulness of the support group where who have terminated pregnancies can share their experiences: activity report of a Japanese support group. 32nd ICM Virtual Triennial Congress.

Robert A .Neimeyer. (2002/2006). 鈴木剛子(訳), 大切なものを失ったあなたへ. (pp67-82). 春秋社.

青笹清香, 碓谷愛, 石川とも子. (2021). 総合周産期母子医療センターの NICU・GCU における遺族交流会に参加した遺族の思い. 日本新生児看護学会講演集. 30, 116.

濱田裕子, 藤田紋佳, 森口晴美. (2020). グリーフケアの今: 子どもを亡くした遺族への関わり: 遺族から学ぶグリーフケア. グリーフ&ビリーブメント研究. 1, 69-75.

蛭田明子. (2015). ペリネイタル・ロスのケアを考える: ケア提供者へのケア. 助産雑誌. 69(3), 214-219.

石井慶子. (2020). 「お空の天使パパ&ママの会」の実践活動: 周産期喪失体験者の多様なペイン. グリーフケア. 8, 135-146.

川村千恵子(2021). さまざまな死別をめぐって: 周産期に子どもを亡くした母親・家族への地域における支援活動大阪ドゥーラの会の活動報告. グリーフ&ビリーブメント研究. 2, 47-53.

厚生労働省. (2021). 令和3年(2021)人口動態統計(確定数)の概況 [ウェブサイト]. https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei21/dl/15_all.pdf (検索日 2022年11月25日)

宮本なぎさ, 太田尚子, 堀内成子, WAIS 関東支部. (2005). 死産を経験した母親を支えるケア: セルフヘルプミーティングがもたらす人間的成長. 聖路加看護学会誌. 9(1), 45-54.

水野真希. (2016). 人工妊娠中絶ケアの実態及び看護者のケアに対する認識. 母性衛生. 57(1), 166-173.

中村早智子, 荒井美佳, 宮前育実, 西野晶子, 堀部静香, 橘淳子, 宮本与志恵, 柘田瑞枝, 河瀬小織, 佐藤麻美, 三浦千春, 新田徳幸, 森悟子, 森泰宏 (2020). 流産に至った ART 患者に対するグリーフケアの試み. 日本赴任カウンセリング学会誌. 19(2), 115-119.

岡永真由美. (2005). 流産・死産・新生児死亡にかかわる助産師によるケアの現状, 日本助産学会誌, 19(2), 49-58.

大久保明子, 郷更織. (2011). 子どもを亡くした遺族に対するケアの現状と課題. 日本小児看護学会誌. 20(3), 20-27.

佐藤由佳. (2011). 効果的な「時間」「空間」「人材」の構築に向けて: 一緒に考えませんか?これからのグリーフケア: 父親・きょうだいへのグリーフケア. Neonatal care. 24(7), 676-680.

竹ノ内ケイ子, 伊藤美奈子, 中北充子. (2012). 不育症患者の支援における当事者組織活動の重要性: ピア・カウンセリングを含めて. 助産雑誌. 66(10), 838-844.

竹内正人. (2016). 周産期と死亡を考える: グリーフケア産科. 周産期医学. 46(3). 305-308.

田中美礼, 小赤澤香苗, 佐々木要. (2020). 死産を経験した親の思い: 遺族交流会の語りから. 盛岡赤十字病院紀要. 21(1), 50-54.

山下恵子, 清沢京子, 増澤景子. (2017). グリーフワークとしての産着づくりの試み. 松本短期大学研究紀行. 25, 69-72.

山下恵子. (2009). 悲しみ寄り添って: 子どもを亡くした親の会「たんぽぽの会」の活動から. 松本短期大学研究紀要. 18, 103-107.

豊奈々絵, 船戸正久. (2017). 看取りの医療 end of life care, 周産期医学. 47(1), 119-122.